

# 都市の水辺で安全に水遊び

## ガイドブック(保護者用)



### このガイドの使い方

都市には楽しく遊べる水辺がない。そう思っている市民も多いはず。たしかに、治水整備の進んだ都市河川は、切り立った護岸、ゲリラ豪雨による急激な水位上昇など、郊外の川とは大きく異なる危険もあり、知識や経験なく軽い気持ちで水辺に近づけば、事故につながる可能性があります。

しかし良く調べれば、生きものたちが賑やかにくらし、楽しい水遊びや学習もできる場所がきっと見つかります。安全に水辺に近づく拠点を慎重に選び、自然の魅力を確認し、市民団体・NPO・教員・保護者などによる安全サポートに配慮すれば、足元の都市の水辺に、子ども達の自然体験・野外学習の魅力あふれる拠点が開かれてゆきます。

そんな想いを支援するために、私たちはこのガイドを作成しました。このガイドが活用され、大人たちによる頼もしいサポートのもと、都市河川の水辺に子どもたちの歓声が響き、地球大好きの次世代が育ってゆくことを期待したいと思います。

#### 都市の水辺で安全に水遊び

ガイドブック(指導者編)

発行 2016年3月31日

監修: 岸 由二(慶應義塾大学名誉教授)  
制作・発行: 綱島バリエーションプロジェクト  
協力: NPO法人 鶴見川流域ネットワーク  
イラスト: 江良美穂  
問い合わせ: 亀田佳子 090-3907-2299



河川 公益財団法人河川財団による  
基金 河川基金の助成を受けています。

### 地域防災施設 鶴見川流域センター



TEL045-475-1998 FAX045-475-1999  
横浜市港北区小机町 2081 入館: 無料  
小学生3年生以下は保護者同伴。Pあり。  
10:00 ~ 17:00  
休館日: 火曜日 年末年始

鶴見川流域センター 検索

鶴見川流域の自然や生きもの情報が欲しいときは、「鶴見川流域センター」に行こう!その他、治水・防災情報も満載です。JR横浜線小机駅から徒歩7~8分。大きな鉄塔が目印です。幼児から大人まで楽しみながら学べる人気のスポットです。

魚とりや虫さがしなどの自然と親しむイベントを始め、自然観察や魚とりができる拠点の紹介もしています。

### バク(鶴見川)の流域って何のこと?

鶴見川は東京都町田市を源流として、川崎市・横浜市を通して、横浜市鶴見区から東京湾に注ぐ一級河川です。源流から河口までの長さは、マラソンの距離とほぼ同じ 42.5 km。

流域の面積は 235km<sup>2</sup>、首都圏のベッドタウンとして市街化率は 85%と開発が進み、195 万人がくらしています。そんな流域の形はななめ後からみた「バクの形」に似ています。

生きものたちは、都市でも、どこでも、自然の単位「流域」がよりどころ!バクの流域にくらす生きものたちを見つけに、この冊子をもって探検にでかけませんか。



流域とは・・・大地に降った雨は必ずどこかの川に流れ込みます。鶴見川に流れ込む大地のひろがりのことを鶴見川流域といい、「流域はバクの形」と子どもから大人まで、親しまれています。

## 事前準備

### 参加者の服装

#### 水辺などの野外体験の場合



化学繊維の衣服を着る。木綿は乾くまで時間がかかり、体温をうばうので向き。

#### 森や林での野外体験の場合

こんな場合は参加できません



土の道もあるので雨の後は長靴が Good !



## 当日

### 危険生物の注意



スズメバチ



マムシ



マダニの仲間



セアカゴケグモ

### 急激な天候の変化への対応

天気予報は常にチェックします。しかし、リアルタイムレーダー等で雲の動きをチェックしていても、急激な天候の変化に間に合わないことがあります。最終的にはリーダー自身の経験と直感が頼りです。以下の標語を共有しましょう。



黒雲わいたら黄信号



雷鳴ったら赤信号



橋の下の雨宿りは命とり!

### 天気情報

地域の天気予報 (局番+177)

インターネット：国土交通省のリアルタイムレーダー

<http://www.mlit.go.jp/saigai/bosajoho/>



## 終了後

### おわりの会 (必須)

#### ①事故の有無の確認

#### ②終了後の注意事項

- 戻ったら、手足をよく洗う
- 子どもだけで川に遊びに行かない

#### ③当日の活動をふりかえり成果を共有する

#### ④主催者の終わりのあいさつ

※開始と終了の時間を明確にし、変更がある場合は、参加者に事前に伝え、了解をとります。

#### ⑤保護者に伝える

- 手を洗う
- 休養をとる

#### ⑥記録をとる



手足に付いた汚れをよく洗い流します。



水の中の活動は予想以上に子どもたちの体力を消耗させます。帰宅後は過激な運動はせず安静にして、体を休めるよう指導しましょう。